

- タイヤ幅 5 インチまでのファットタイヤに適合します。
- DS-150F は、車輪受け枠・ステップバー・タイヤ乗せはすべて分離した形で供給されます。ご使用にあたり、以下の図の状態になるように組み立ててください。タイヤ乗せは車輪受け枠と一緒にステップバーに通します。車輪受け枠はステップバーにボルトで固定されますが、タイヤ乗せは固定されるわけではなくシーソー状に自由に動くことに注意してください。
- DS-150F には、DS-150 には付属している短い方のステップバーはありません。
- DS-150F の車輪受け枠の間隔はお使いになる自転車に適合するよう、あらかじめタイヤ幅に合わせて広げておいてください。ステップバーを通す前でも調整できます。

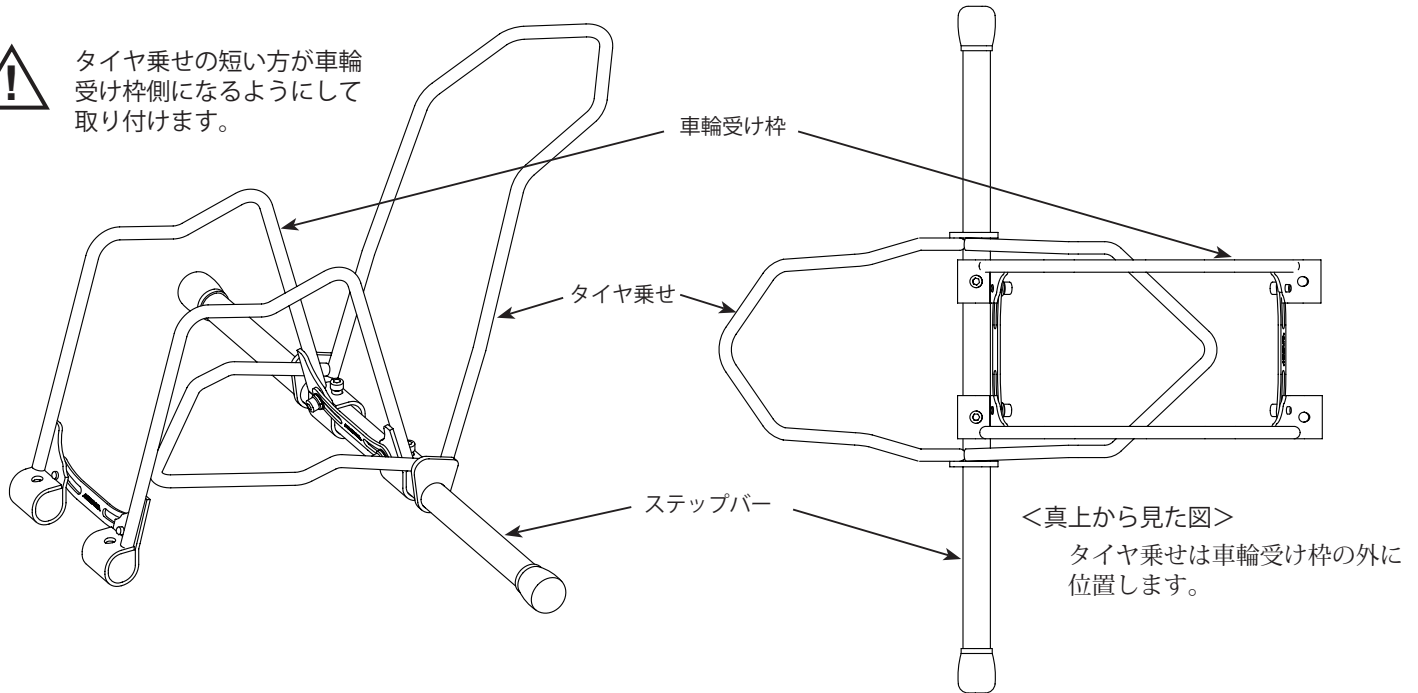


品質保証期間：ご購入後 1 年間

詳しくは弊社ウェブサイトをご参照ください。

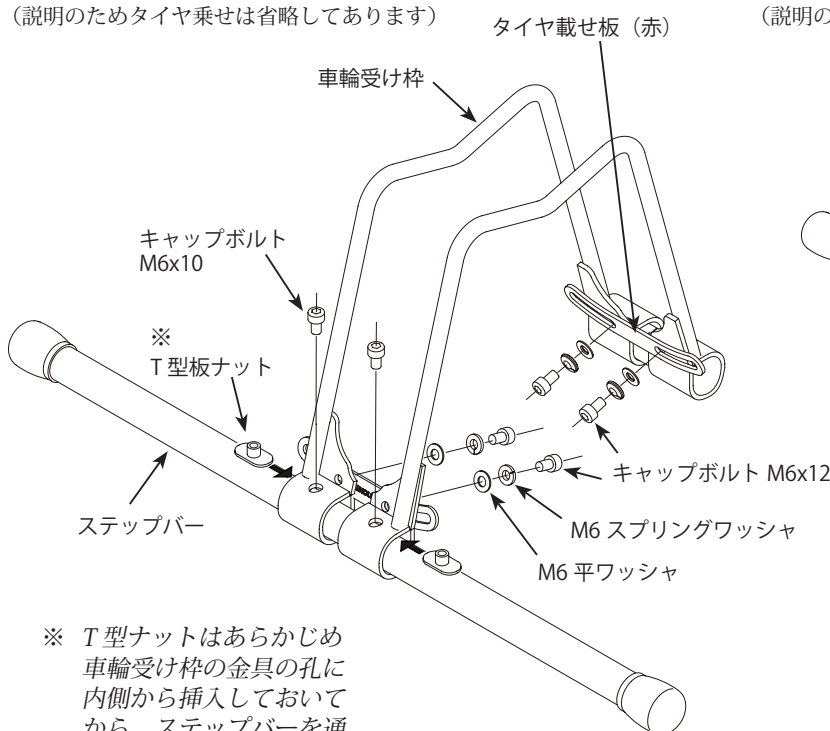


タイヤ乗せの短い方が車輪受け枠側になるようにして取り付けます。



DS-150F の組み立て図

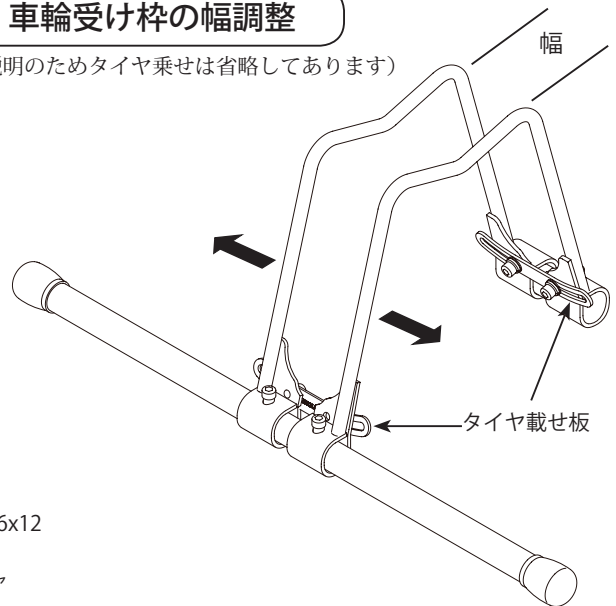
(説明のためタイヤ乗せは省略してあります)



※ T型ナットはあらかじめ車輪受け枠の金具の孔に内側から挿入しておいてから、ステップバーを通し、外からボルトを締めつけて固定します。

車輪受け枠の幅調整

(説明のためタイヤ乗せは省略してあります)



お使いの自転車のタイヤ幅に合わせて、車輪受け枠の間隔を調整します。

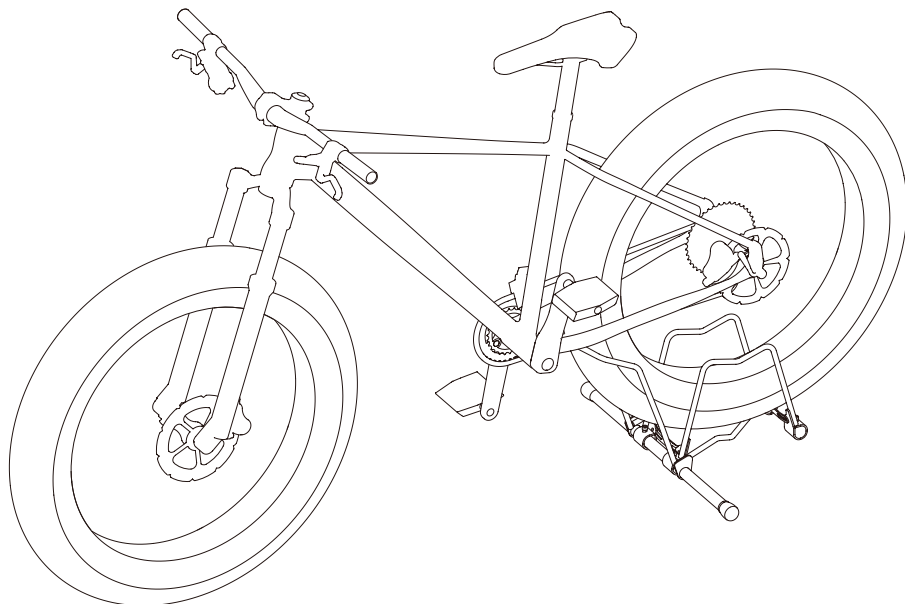
キャップボルト M6x12 を緩め、タイヤ載せ板が水平を保つように左右の車輪受け枠をできるだけ均等に位置をずらしてから、再びキャップボルトを締め付けて固定します。

後輪で使用する場合

後輪タイヤを車輪受け枠ではさみながら、前後をタイヤ乗せで支えます。タイヤ乗せをシーソーのように使って、先に後輪タイヤをタイヤ乗せに収めておいた自転車を後ろに下げながら、車輪受け枠に挟んで立てるようにして使います。



後輪で使用する場合は、リアディレーラがトップのままでは車輪受け枠とリアディレーラのゲージとが干渉し破損してしまうのを防ぐため、必ずロー側の当たらないところまで変速しておいてから使用してください。



前輪で使用する場合

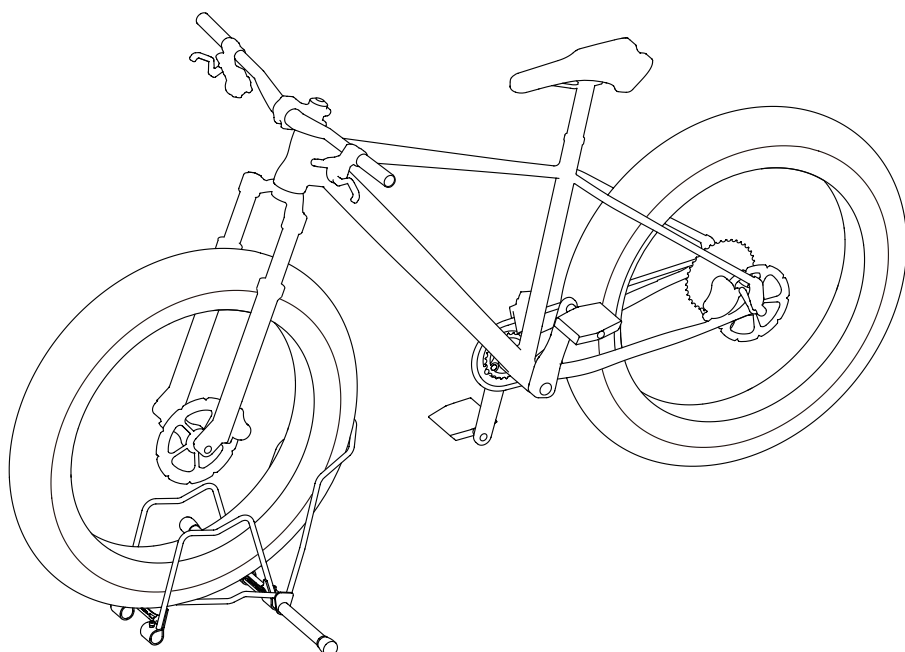
後輪と同じようにして支えますが、タイヤ乗せの長い方が必ず内側になるようにしてご使用ください。



前輪で使う場合は、ハンドルを捻らないようにまっすぐにお使いください。ハンドルを切ると自転車の構造上車体が傾いて不安定になり、最悪の場合転倒してしまう恐れがあります。



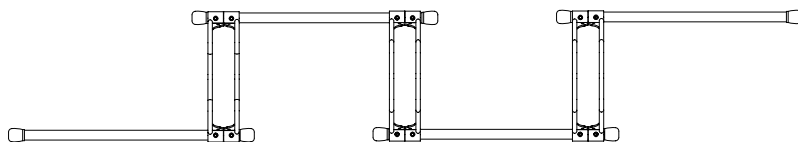
単独での使用は横風などに弱く転倒しやすいため、ステップバーは必ず左右均等に突き出して使ってください。



DS-150F 同士の連結

(説明のためタイヤ乗せは省略してあります)

DS-150F は単独で使用するより複数連結して設置した方が、安定して自転車を支えられます。連結するには、ステップバーの装着位置を端にずらし、もう一方の端を隣の DS-150F に通してボルトで固定していきます。



< 3 台連結する際のステップバーのつなぎ方の例 >

※ 1 台だけ DS-150F を組むと T 型板ナットと M6x10 ボルトがそれぞれ 2 ヶ余りますが、これは他の DS-150、DS-150F あるいは DS-110 と連結する際に必要なものを先に用意してあるという意味です。員数を間違えているわけではありません。

問い合わせ先

Made in Japan

株式会社 箕浦

〒503-2305 岐阜県安八郡神戸町神戸 1197-1

Phone: (0584) 27-3131 Fax: (0584) 27-7505 Web: www.minoura.jp

Mail: minoura@minoura.jp (営業) / infodesk@minoura.jp (カスタマーサービス)